

# 学生の皆さんへ

学生部長 笹倉 和幸

早稲田大学は、毎年、学生部が中心となり学生生活調査を実施しています。このたび、その最新の調査結果が出ましたので、ここにお届けします。

早稲田大学には現在、約54000人の日本人や留学生が、学部学生・大学院学生として、在籍しています。早稲田大学は、全ての早大生の学生生活が充実したものになるように、日々努力を続けていますが、そのためにはまず、多種多様な構成を持つ早大生の全体像を知る必要があります。その基礎資料となるのがこの学生生活調査の結果であり、学生部のみならず、皆さんの所属する学部・大学院を含む大学全体で活用されています。

2014年度は10000人の学部学生、2000人の大学院学生、ならびに昨年ご協力いただいた学部学生のうち、現在2～4年に在籍する996人、そして全ての専門職大学院生に対して、学生生活に関するアンケートへの回答をお願いしました。ご協力いただいた皆さんには、この場をお借りしてお礼を申し上げます。もし皆さんの現在の学生生活が充実しているのであれば、それは皆さんの先輩たちのこの調査への協力の結果でもあるでしょう。そして、今回の皆さんの協力も、皆さんはもちろん、皆さんの後輩たちの学生生活を一層充実させることになると考えています。

今回の調査で、学生生活が「充実している」「やや充実している」と肯定的に答えた学生はそれぞれ40.4%、

50.5%で、全体の90.9%になりました。5年前の2009年度より、5.9%上昇しています。昨年度に続き、早稲田大学としてはうれしい結果となりました。もちろんこの結果に甘んじることなく、否定的回答であった8.3%の学生にも満足してもらえるように、引き続きさまざまな角度からの改善策を探っていくつもりです。

今回の調査では、昨年3月に行った早大生の生活実態調査での設問も含めて、皆さんに回答いただきました。これらの設問は、今後Waseda Vision 150において、「教育・研究への学生参画の推進」の一環としてスチューデント・ジョブを位置付けていくための基礎資料として、皆さんの生活状況を把握することを目的としています。Waseda Vision 150については、P.4とP.5で詳しく説明していますので、ご覧ください。

最後になりましたが、全10章からなるこの報告書の作成にあたっては、第1～3章を松井泰二 スポーツ科学学術院准教授に、第4～6章を岩瀬英治 理工学術院准教授に、第7～10章を仲道祐樹 社会科学総合学術院准教授にご担当いただきました。ご多忙の中、調査結果の分析を快くお引き受けいただきました先生方には、心より感謝申し上げます。

2014年10月20日

## 本報告書の構成について

P.3では調査の概要を一覧表にまとめています。P.4・P.5ではWaseda Vision 150と学生参画についての詳細を説明しています。P.6～P.20までは約75問にわたる設問を分析した結果を、第1章 授業・勉強・教員・研究について、第2章 将来設計（キャリアプラン）について、第3章 心身の健康について、第4章 早稲田大学の取り組みなどについて、第5章 大学院学生について、第6章 早稲田大学について、第7章 経済状況について、第8章 アルバイト状況について、第9章 住まいについて、第10章 生活サイクルについて、以上10のカテゴリーに分けて特徴をまとめています。P.21～P.24は記述回答を除く各設問の単純集計結果を掲載しています。